

令和5年度 発達障がい基礎研修会「あの子をもっと知るために」

実施報告書

1. 概要

- 【日時】 令和6年2月1日(木) 9時15分～12時
- 【場所】 石橋公民館 会議室2・3・4・5
- 【対象】 市内の学童保育室、児童館に勤務している支援員
- 【目的】 グレーゾーンのお子さんに対する理解を深める
- 【講師】 市学校教育サポートセンター 石川泰子氏
- 【形式】 講義とグループワーク（集合開催）※別紙(次第)参照
- 【主催】 市地域自立支援協議会 こども部会

2. 研修の様子



↑ 講義

グループワーク →



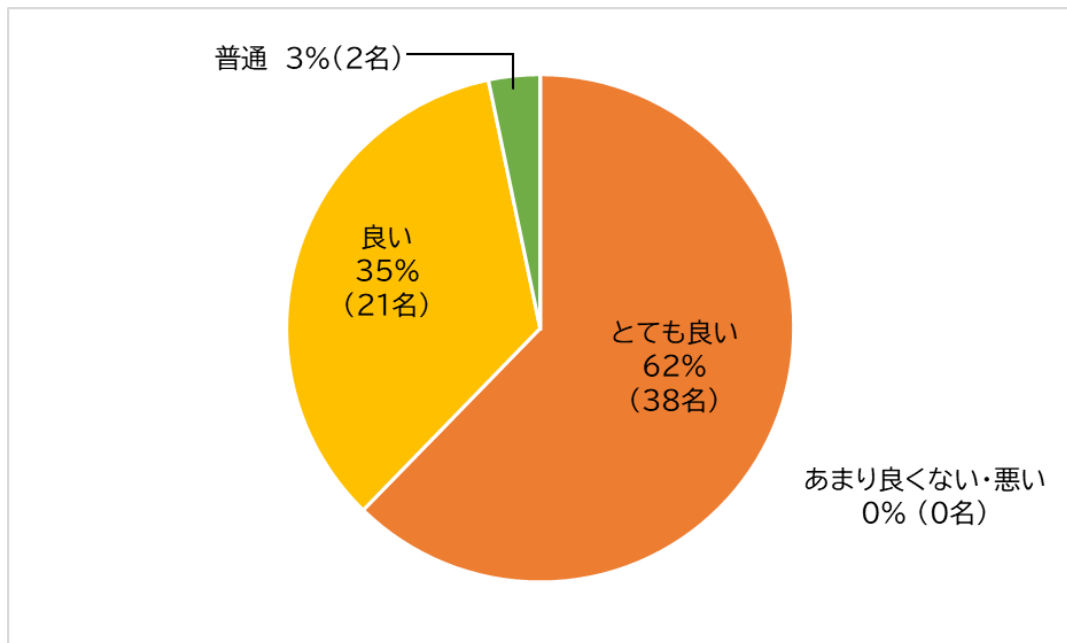
3. 参加者数

- ◆児童館、学童保育室の支援員 …63名
- ◆学校教育サポートセンター(講師ほか) … 7名
- ◆事務局 … 9名

4. アンケート結果

アンケート回収数 61 (回収率97%)

Q1 本日の研修はいかがでしたか？
(とても良い／良い／普通／あまり良くない／悪い の5段階評価)



Q2 印象に残ったこと、ご意見などがあれば、自由にご記入ください

代表的な意見を抽出し、()内にカウント

《a》 石川先生の講義

- ◆勉強になった。発達障がいと愛着障がいの違いを知ることができた。(10)
- ◆石川先生の話がとても分かりやすかった。(4)
- ◆愛着障がいという言葉は聞きなれなかったが、思い当たることがあった。(6)
- ◆「無視」の対応が、ADHD と愛着障がいでは異なることが分かった。(3)
- ◆保護者や学校との連携が大切。(5)
- ◆「どこからでもスタートできる」という言葉が印象的だった。(3)
- ◆支援員もその子にとっての「安全基地」になれるよう、関わっていきたいと思った。(7)

《b》 グループワーク

- ◆他の児童館・学童の支援員と話ができて、とても有意義だった。(13)
- ◆色々な児童館・学童の様子、対応のしかた等を聞くことができ、とても勉強になった。(21)
- ◆他の参加者や、サポートセンターの方からアドバイスをもらうことができよかった。(4)
- ◆他の参加者も、保護者との関わりや、伝え方の難しさを感じていることが分かった。(4)
- ◆どこの学童も同じように悩んでいると知り、頑張ろうと思った。(9)
- ◆他のグループで話した内容も聞くことができよかった。(2)
- ◆昨年よりも時間があり、グループワークが充実していた。(4)

《c》 研修全体を通して

- ◆私たちの仕事は、子どもの成長や命を守ることに繋がっていると感じた。
- ◆障がいのある／なしに関わらず、どう子どもと向き合っていくか、改めて考えさせられた。

《d》 今後の研修について

- ◆今後もこのような研修を受けたい。(3)
- ◆成長過程に応じた症状の変化を知りたい。

《e》 その他意見・要望

- ◆支援員の数を増やしてほしい。(2)
- ◆学校ともっと連携したい。(3)
- ◆学童、学校、市の関係部署、保護者の話し合いの場を設けるようにしてもらいたい。(2)

5. まとめ

昨年度の反省点をふまえ、グループワークの充実に重きをおいたところ、アンケート結果からも分かるように、満足度の高い研修を実施することができた。

グループワークは約1時間を確保し、情報交換や意見交換をしていただいた。対応に苦慮している話で共感したり、工夫していることを共有するなどし、有意義な時間となった。どの施設でも悩みながら対応していることが分かり、参加者の意欲向上にもつながった。なお、あらかじめ事務局側で司会者と発表者を指定したが、特に混乱はなく、むしろスムーズに進行できたように思う。

石川先生の講義は分かりやすく、「あの子もそうかもしれない」と、実際のケースを思い浮かべる参加者も少なくなかったようである。

支援員は入れ替わりがあるため、次年度以降も継続して本研修を実施する予定である。

また今回、人員不足や学校との連携不足について複数のご意見をいただいた。特に学校との連携に関しては、こども部会の下部組織として発足した「下野市児童発達支援センター・放課後等デイサービス事業者連絡会」とも連携を図りながら、検討していけるとよい。